

〔概要〕

本研究では、富山市の習い事に通っている子どもを中心に、子どもの遊びについて聞き取り調査を実施し、習い事に通うことで現代の子どもは新たにどのような遊び空間・時間・仲間を得ることができるようになったのかを時間地理学的に考察した。調査の結果、現代の子どもは、なんらかの習い事に通うことで、放課後の自由時間が制約され、遊ぶ機会が減少していることが示された。一方、現代では、ドメインの増大や安全志向の強まりなどの要因から子どもの遊び空間が減少している中、習い事の場所は習い事に通う子ども達が同じ空間に集い、同じ時間を過ごし、遊びを共有する事で、遊び空間としての機能を果たしていることが明らかになった。また、習い事に通う子どもと通わない子どものデイリーパスを比較することで、習い事に通う子どもは、習い事に通わない子どもよりも、居住地から遠く離れた仲間や学年が異なる仲間と遊ぶことが可能になることから、交友関係が拡大していることがわかった。一方、習い事に通う子どもの親に聞き取り調査を行ったところ、子どもが習い事に通うことで、親の生活時間も制約を受けていること、子どもの生活時間や交友関係は親のそれらにも依存していることが明らかになった。